

バチカン大司教が、ウクライナ戦争は deep state が起こしたと論難

併せて Covid ワクチンとの関係を指摘

<https://www.infowars.com/posts/vatican-critic-blames-deep-state-for-ukraine-war-citing-covid-19-measures/>

Claire Giangrave | Religious News Service

March 8, 2022

⇒歯に布着せぬ大司教が、ウクライナ紛争と、Covid-19 ワクチンへの反対を結び付けて断罪した。

バチカン市 (RNS) ——法王フランシスが、ウクライナの紛争を調停しようと試みている一方で、元駐米教皇大使で、はっきり物を言う法王批判者の Carlo Maria Viganò 大司教は、月曜日 (3月7日)、一通の手紙を公開し、アメリカ、EU、及びNATO の deep state の勢力こそ、現在の戦争を引き起こした者たちであり、ロシアを悪魔化していると難詰した。

「アメリカ合衆国とヨーロッパ各国は、ロシアを軽視するのでなく、ロシアと連盟を結ばねばならない——全体の繁栄のために貿易を再スタートさせるだけでなく、キリスト教文明の再興のためにそうすべきだと言った。なぜなら、それだけが、トランスヒューマン的な、医学的-工学的な、グローバリストの怪物から、世界を救うことのできる唯一の方法だからである」と、大司教は、彼の1万語近い手紙で述べている。

この大司教は、多くの国と共に、アメリカへの教皇全権大使を務めた人で、権力や影響力ある人々の中で何が起きているかを、鋭く理解している人だが、かつて法王フランシスが、前枢機卿セオドア・マキャリックの恥ずべきセックス犯罪と言われるものを、隠ぺいしたことを非難し、2018年、法王の辞任を要求して以来、ヴィガノ大司教は、カトリックの保守派の、少数だが、思い切って発言する人々に歓迎されてきた。彼の論鋒はますます反移民、反ワクチン、そしてトランプ支持に傾いて言った。

大司教は彼の手紙の中で、プーチンは、アメリカに支援された戦闘的な NATO に追い詰められていると言い、この者たちは、自分の利益のために、この紛争をエスカレートさせようとしていると言った。「これはウクライナに対するのと同じように、ロシアに対しても

畏であり、この両者を利用して、グローバル・エリートたちの犯罪的計画を、実らせるものなのだ」と Vigano は書いている。

いわゆる民主国家たちは、ヴィガノによれば、反対意見を唱える者たちに「非難と不寛容」を課してきたのだ。パンデミックは、このダイナミック（力学）を悪化させている、と大司教は言い、グローバルなメディア機関は、協力する政府や、カトリックの階層組織と、「恥さらしにも一緒に寝た」のだ、と加えて言った。

ヴィガノは、COVID-19 ワクチンの投与に反対する人々の「追放」は、プーチンを「侵略者」とか「暴君」とか呼ぶことを、拒否する人々への扱いに似ていると言った。

バチカン は繰り返し、ワクチンに対する反対者を退けてきたが、反対の理由は、それらのワクチンの発達やテスト過程が、妊娠中絶による胎児から得た、幹細胞株のオリジナルを使ったものだからである。法王フランシスは、グローバルなワクチン支持の、キャンペーンに参加しており、注射を受けることを「愛の行為」だと呼んでいる。「生命のための法王アカデミー」は、妊娠から自然死までの、生命を促進することを任務とするシンクタンクであるが、これが何度となく表面に出て活動し、カトリック教徒はワクチンを受けるように奨励している。

ヴィガノは、ロシア大統領ウラジミール・プーチンの、ウクライナ攻撃の正当性を認め、メディアが、ウクライナのネオ・ナチ集団と言われるものを取材せず、これが、ドネツク、ウガンスクといった、ウクライナ地域の、ロシア語を話すウクライナ人の攻撃に、つながっていることを嘆いている。ウクライナ大統領ボロジミール・ゼレンスキーは、ロシアが2014年以侵略した、彼の国家の東部での、8年に及ぶ紛争の背後に、ナチズムが存在するという考えを嘲笑している。

・・・・・・・・（以下、半ページ略）・・・・・・・・

[訳者 Greatchain 注]

事ここに至り、問題がこうもこじれたとき、我々はどうすればよいのか、あるいはよかったのか、ここには「正確に」書かれており、言葉の使い方に至るまで、我々は納得できる。バチカンの指導者として、これは当然とはいえ、貴重な発言であり、現在の法王フランシスとは真っ向から対立することによって、ますますわかり易いものとなっている。

大司教カルロ・マリア・ヴィガノは、その地位と指導力によって、世界がいっせいにロシアとプーチンを「悪魔化」という馬鹿げた方向に、大喝を与えてほしいと思う。我々は、プーチンがこの苦境に陥ったとき、世界が一丸となって彼を支持すべきだった。悪のプロパガンダに立ち向かう、毅然とした態度を示すべきだった。我々の恥部は宣伝に弱いことである。実は我々は、麻痺状態に陥っており、アメリカだけはどんなに悪事を働いても許され、アメリカが悪いと言えば悪いのだろうと考える、習性がついている。情けないことだが、何十年来の変わらぬ事実である。

かりに、ロシアとプーチンが押しつぶされ、敗退したとしたらどうなるか？ 我々は「勝った、勝った」と喜ぶのか？ それは全く逆であり、我々はますます悪と墮落の世界へ追い込まれ、奴隷化されるだろう。現在でさえ危うくなっている善悪の判断を、我々は完全に奪われるだろう。彼らはそれをやるプロである。報道はされないが、現在でもバイデンはしょっちゅう性的問題で訴えられている。「そんな些細な事」というのは間違いである。グローバリストのサタン信仰の基本には、ペドフィリアがあり、性的混乱や転倒がその特徴となっている。プーチンはそれを知っている。バイデンはいつもその宣伝をしている。その点で、墮落したバチカンと決然と戦っているのが、ヴィガノ大司教である。彼のワクチンに対する、明確な見解をよく読んでいただきたい。宗教的な観点からも、ワクチン運動は間違っている。